

1966年度

冬 山 合 宿

前穂 party 記録

信州大学山岳会
長野山岳部

冬山反省

宇都宮義昭

長い様で短った合宿も終り、寮で一人正月を祝い、終ってしまった合宿をふり返る時、自分の致らなさによる失敗の連続で苦々しい反省ばかりが、浮か来て、酒もまずくなる、どういった心境です。

せいかくの貴重なこの時期を、何ら得る事なき山行に皆をおいてしまった事が申し訳なくて……………何も言えない心境です。

失敗の原因として考えるに、

1. リーダーの不適

2. Member 構成に対する目標の高度すぎること

1. 2 は部歴といったものに惑わされて、実質的な部員及び部の力量といったものが、はかり得なポイントに起因すると思います。

3 合宿というものに対する考え方の点を食い違いがあった事

4. 体の故障者が、あまりにも多すぎた事

以上の4点があげられる、と思います。確かに天気は悪かったけれど、でもそれならそれなりに合宿を成功させれたと思うと、残念です。

1 は自分かリーダーとして、合宿中皆の心を前穂に集中できなかった点として途中下山者まで出してしまった点等、すべてが、致らなさに起因して、本当に申し訳なく思います。部員だけで、リーダーと沃めるのは危険であるという教訓が頭の中を駆けまわる。そして今合宿の最大の失敗原因は精神的なものによると思います。その事が入山以前の問題として皆の心の中に今合宿の目的を浸透できずに漫然と入山させてしまい、体調も心の準備もできていない部員と多数作ってしまった。この事も先の反省と関連して、ますますに苦しいです。

2は上級生パーティというところで、各人の技量を見る事はせず盲目的に、何年部長だから、この程度の技量だと決めて、目的を決めてしまつた事です。ですから、幸いにして、山の天気が悪くて良かったもの、もし天気が良くて、C3建設や、前穂 Attackの段階に致つた時に致命的な事態にならなかつたとは断言できないものがあります。

この事は部のレベルが相当に低く、又合宿の構成に當っては部員よりも個人の力量の点により目を向けるといった、基本的な姿勢に戻る必要があると深く反省しています。

(ここで誤解をさける為に、力量とは、単なる技術屋ではなく、技術と精神面がつり合のつれた、その事を言うのです。

3の事が一番はっきりしたのは4とも関連しますが、体調と入山前の心構えの点だと思います。上級生 party というのに、バテトレーニング不足を口に出して笑ってすましてしまう……。

自分の体の故障を動けなくなるまでかくしている。そして、体調が悪くて沈しても一日中起きてさわいでいる。この事はひとえに、リーダーの致らなさに起因して変なナレ合いムードをかもしだし、真剣に山に登る、pola Methodによる各個人の役割というものを忘れさせた事にあると思うと赤面の次第です。又この事が、28日の行動変更の最大原因になり又行動 Memberの減少になり、C3建設が遅れた事の原因になつたと思います。

そして、以上の事々を考えて来る時に、体当に山に登る意欲のある者の集りが、我々の山岳部なのか？ といった疑問がわいて来のです。さびしい事です。Attack Memberに予定された人でさえ、下下界でトレーニングもせず、又山に入るとは、体の故障を下山

前日まで、だまっているのでは、後は概して知るゝしと
 たものです。何も得る所がなかつた令宿ですのをせ
 めて、反省を深くけり下げて、次の山行には一度と同じ
 誤りまはくり返したくない、その急が次第です。

5 42 1. 14

冬山合宿参加者

- | | |
|--------------|--|
| 5. 秋元一浩 工通4 | 長野市中御所 411 篠原方
東京都世田谷区代田 1-14-10 |
| 5 駒 井浩 工土4 | 長野市中御所 411 篠原方
神奈川市須磨区天神町 3丁目 4-2 |
| 4. 宇都宮昭義 工土3 | 長野市若里 500 若里寮
静岡市西千代田町 199 |
| 4 望月吹洲 教社4 | 長野市新田町 156 中島方
東筑摩郡明科町中川手 1755 |
| 3 向 後利彦 工土3 | 長野市日語 1604 平井方
東京都北多摩郡久留米町大字 2-134 ^{ひばりか岳田地29-5} |
| 3 八木国久 工電4 | 長野市大字徳間 |
| 3 西山春代 教家3 | 長野市柳原上見 2038
長野市小田切 2120 |
| 2 市野史明 教理2 | 長野市上松 571 岩崎方
愛知県半田市住吉町 7-41 |
| 2 井原 学 工電2 | 長野市西和田 102 |
| 2 金子鉄男 工土2 | 長野市日語 1604 平井方
大阪府寝屋川市郡大字 487 |

合宿概要

1. 合宿の目的

- ・前穂丁タック
- ・山を楽しむ
- ・今まで身につけた技術の上に立って技術の向上

2. 期日

12月24 ~ 67' 1月13日まで

3. 場所

横尾尾根より、前穂(横尾P5、南岳、北穂に亘り)

4. 形式

Semi Polar Method (横尾B.C. 徹収)

C₁ - P5 C₂ - 南岳 C₃ - 北穂(A.C)

5. 留守本部

百瀬斐敏 松本市岡田松岡 51

部員 小林元紀 長野市松代 東条 4242

6. 構成

C.L	宇都宮昭義	气象	井原 学
SL	向後利彦	医療	秋元一浩
装備	向後利彦	渉外	駒井浩
	金子鉄男	会計	望月映洲
食糧	市野 史明	記録	西山春代
顧問 (工)	石田光夫	長野市若里南市	信大工学
	坂) 斎藤豊	長野市吉田広町	信大吉田
監督	百瀬斐敏		
主将	向後利彦		

行重力全容

--- 行動予定

—— 実行

長野 沢渡

	BH	BC	C ₁	C ₂	C ₃	前穂 備考	実行
1							入山
12/24							入山
2							B.C 設管
25							
3							
26							
4							B.C 設管
27							C ₁ 設管
5							模尾の歯
28							模尾の歯
6							C ₁ 設管
29							C ₂ 設管
7							
30							
8							
31							
9							
1.1.1							
10							
2							切戸 + X 橋 7.9.7
11							
3							C ₃ 設管
1/2							
4							

13								規													
5								規													
14																					
6																					
15																					
7								規													
16								規													
8																					
17																					
9								規													
18								規													
10																					
19																					
11																					
20																					
12																					
21																					
13																					

前穂 aha de の予備 F-1E が北穂へ引返す

下山の予定で行進したか途中で引返す

C1 集合

下山

下山

行動記録

12月24日

8:30 松本集合① 9:20 松本発① 10:00 島々①
12:10-1:30 中の湯 Essen ② 1:50-2:00 釜工堤の上②
2:20-2:50 山賊小屋 西山、駒井、秋元、八木、トナリ、残
り、木、田、又 3:30 中の湯発 4:03 トン場着
Essen 望月・八木・市野

12月25日

5:30 Essen 7:35 トン場発① 8:25-8:45 帝国村
11. 計画書提出 9:35-10:00 明神手前① 10:50-05 河原①
11:45-12:00 長峰沢集合① 12:45-1:05 横尾 Essen①
1:40 トン場着① 4:35 トランシーバー交信①
Essen 秋元・西山・井原

12月26日

4:15 起床② 5:10 Essen 5:35 前アルファと交信
・P.5 荷上げパーティー 秋元・井原・望月・中郡
6:30 発 7:15-30 1本 屏風を正面にみて スパはかき 8:10
-8:35 1本 本谷集合、スパつける。9:00-9:15 1本 取付き
おし 80m 上った所 10:00-10:10 1本 10:40-10:50 アゲ
ンつける。風強く雪まじ。11:50-12:20 ティム トランシーバー交信。
マッパつける。1:00 54峰おりもどる。1:15-1:30 Essen
2:05-2:25 本谷橋の上 3:00 帰トン
・上高地ニ木田又 駒井・西山・市野・金子・八木・向
6:30 発 7:45-8:00 徳沢① 8:50-9:05 奥晴神沢②

9:40-9:55 小梨平.伝言 10:50-12:00 千本10点 Essen ⊗
12:50-1:20 木村小屋 2:00-2:05 千本沢村 2:40-2:55
1本 3:30-3:40 徳沢 4:00-4:20 長木沢番合 トニニバ
4:58-5:10 避難小屋 5:35 千本場
Essen 金子.向後.駒井

12月27日

6:05 Essen 8:10 薙 8:50-9:02 1本本谷 9:43-9:53
取付.80m上 1本 10:13-10:35 Essen 11:23-11:35 1本
12:35 千本場着 2:20 千本トニ入8.

Essen 市野.西山.望月
千本回収 井原.金子.小本.向後.秋元

12月28日

横尾の齒 fix 宇都宮 秋元 井原 市野 他 丸
8:30 起床 9:50 Essen 11:10 薙 12:00-12:10 交信
1:00-05 交信 1:50 帰千

fix 40 (クマナ)-1 20 (バクV)-1 ハナニ 兼1 横1
スナワ 6本 ビナ-3

12月29日

南岳 千本隊 市野 井原 秋元 宇都宮

7:10 薙 7:35-8:05 1本 交信 8:45-9:15 Essen
9:45-9:55 1本 尾根最高地 10:10-11:50 南岳小屋
Essen 12:03-12:05 1本 12:45-12:55 1本 1:10 帰千

横尾 木村 西山 駒井 望月 八木 金子 沈澁 向後

12月30日

快晴 風強し 金子 向後 駒井 沈澁 他全員で荷上げ
天狗平の川で風強く引返す。

12月31日

7:38 飛◎ 8:15-8:25 1本 9:00-9:23 1本①
10:05 小屋着 11:25 飛 11:58 コルニ木地点 12:30 飛◎
12:50-1:05 1本⊗ 1:30 小屋着

Essen 西山、八木、市野、金子、駒井、向後 F山
小屋残留 市野、望月、駒井、西山
木村 回収 井原、金子、八木、秋元、宇都宮。

1月1日

風雪、沈澁

1月2日

3:45 起床 4:30 Essen 秋元、井原、金子 沈澁

1月3日

3:30 起床 (Essen) 5:30 全員起床 外へ出。降雪
9:20 沈澁決定

1月4日

沈澁

1月5日

沈没

1月6日

6:30 ① 飛 8:10-20 切戸 ① 10:15-11:40 北穂小屋②

②:40-②:50 切戸 ① 3:53-4:00 ① ⊗ 4:15 南岳着

31P-テ-に分けて行動。

駒井・望月 Attack 隊

秋元・八木・金子 三田沢までサポート

宇都宮・西山・市野・井原 北穂小屋まで

6:30 サポート隊 飛 7:00 マタック隊 飛

前穂 ラッシュの予定で3 party まで飛。北穂ピークに着くと天気悪化のキガミが見え前穂あきらめて帰る。

1月7日

沈没

1月8日

5:00 Essen 7:40 飛 風雪強シツバで6ピッチ引返す。10:15 南岳の小屋にモどる。

1月9日

沈没

1月10日 晴

4:25 Essen 6:30 下幕徹集 7:00 小屋巻 9:20 JIL
10:30 P5 11:40 P5巻 1:10-20 本谷橋 2:15 横尾

1月11日

4:45 Essen 起床 6:00 Essen 8:05 巻 8:15-25 山賊小屋
9:25-9:35 徳沢 10:30-11:00 Essen 11:25-30 山賊小屋
11:45-12:20 帝国ホテル 1:15 中の湯 4:20 マイクロバス

12.24 松本 $\xrightarrow{10}$ 中の湯 $\xrightarrow{10}$ 山賊小屋

25 山賊小屋 $\xrightarrow{10}$ 横尾岩小屋 T.S.

26 山賊 $\xrightarrow{6}$ T.S. $\xrightarrow{4}$ P.5

27 T.S. $\xrightarrow{10}$ P.5

28 P.5 $\xrightarrow{6}$ 横尾の歯 fix

29 横尾 $\xrightarrow{5}$ P.5 $\xrightarrow{4}$ 南岳

30 $\overset{3}{\circ}$ P.5 $\xrightarrow{7}$ 干狗のJIL

31 F山 $\xleftarrow{1}$ P.5 $\xrightarrow{9}$ 南岳

1. 1. 2. 3. 4. 5 氷灘

6 南岳 $\xrightarrow{9}$ 北穂

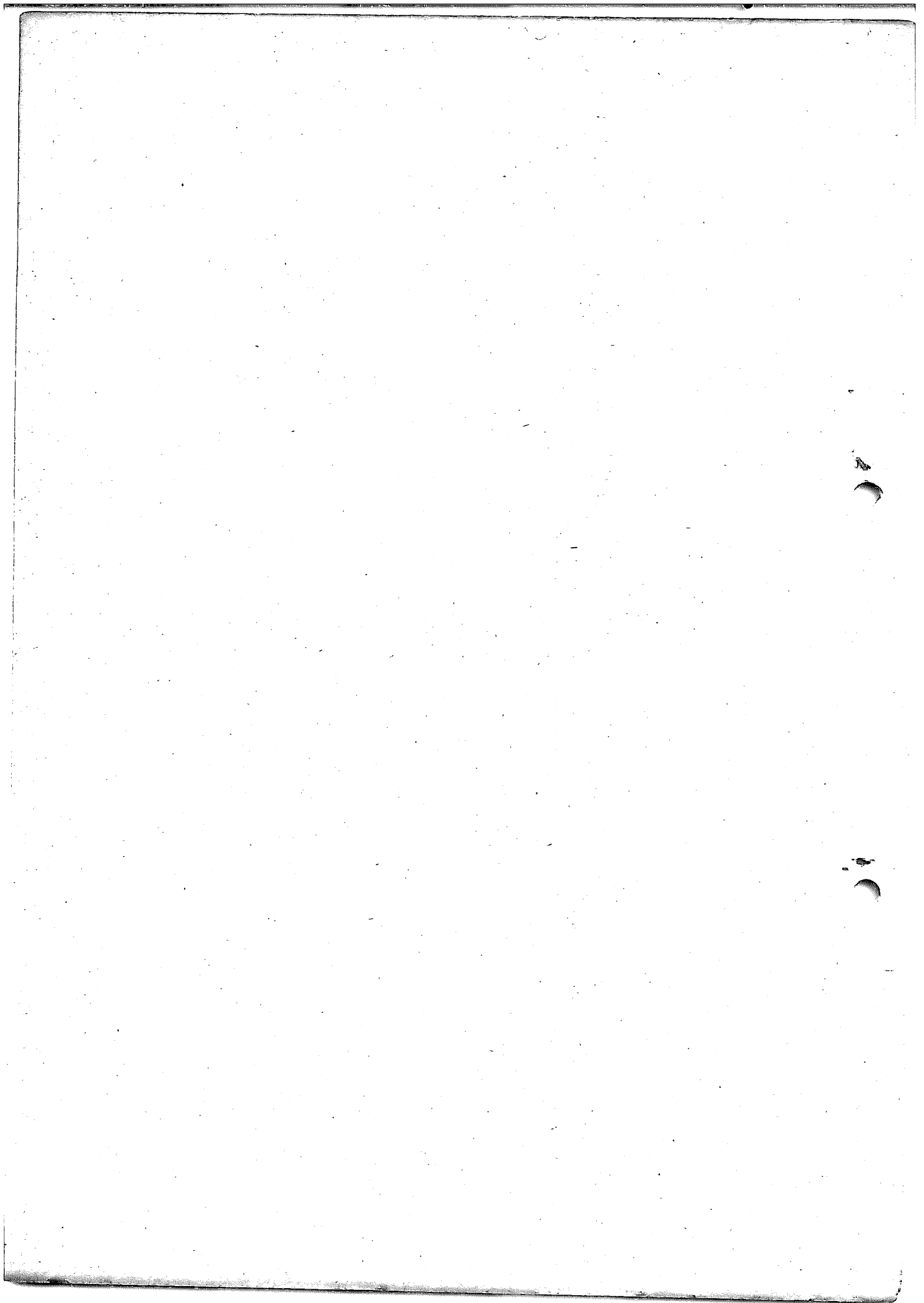
7 氷灘

8 南岳 $\xrightarrow{9}$ 横尾尾根下150mF

9 氷灘

10 南岳 $\xrightarrow{9}$ 横尾ボッカ小屋

11 ボッカ小屋 $\xrightarrow{9}$ 中の湯 $\xrightarrow{9}$ 松本



各係の報告と反省

ESSEN係

市野文明

当初の目標と入山後の実際の内容とに異なることの多すぎた事、それがオーに問題とされる。他 partyの残物を大いに利用したということには、我々の Essen に絶対的な自信がなかった事に帰するところがある。この合宿に私としての Essen の一線を守って最期まで強引にも押し通すべきであつたかもしれないがこの事についてはより厳しい態度で合宿に臨めば、おのずから善非の区別はつくものではないか。もちろん、山に所有者が不用の食糧があれば、それを使い、よりおいしく献立をつくるのも悪いことはないと思っています。

以上のことは Essen 内容についてである。又 pola 法につきまとうレーションの煩雑さ及び梱包のそれにも全く解決の方法は見出してない。今後の pola 法の Essen (レーション) 梱包の能率、正確さの研究が必要であらう。この事は下界においても、部員各自の研究と実践が大きくなるであろう。当然部の食糧係のK兄には徹底的な研究を期待する。基本レーションについて、梱包は各テント別にするのが主体であつた。各テントのノベ日数を割り出して報告すべきかと思ひますが、合宿形能が、かなりの変化があり、結局全員南岳に集ることになつたので、詳しい、レーションの型は略します。それから人間の消化力、及び摂取 cal について、冬山での行動日には 4000 cal は必要とされる。では必要量を如何にして、摂取するか？ 私は 150円 800g と

標が2000 cal 位に低下しているか、我々が想定して
いる場合後半にのれば、2000 cal 位に低下して実際の
摂取量は 2000 cal 位に低下していると思えばよい。

ここで大切なことは人間には消化力が冬山に長期間
入山する場合、非常に悪くなり 5000 cal - 8000 cal の Essen
では無理が生じる。つまり 8000 cal 中に消化を助ける他 cal
のものを多く混ぜなければいけないから、短期間の
rush attack と長期間の pola 法による attack とは
食糧の質においても全面的に違いがあるのだろうか？

どこか相違点のどこかあるのか、研究の余地ありと
Essen 係をして、感じることでもあり、若さと馬鹿さの
せいではあるやもしれませんが、以下のこと。

各テントの人員分け、各テントにおける食糧カリーコン梱
包、装備を各テントに分ける、こんなことが pola 法と思っ
て疑われない。SNAC の御仁、時代遅れと言われている
pola 法さえ満足に、その真髓を理解していない、又理
解しようとする努力していない我が部…… //

入山費用が安いだけかとりえの我が部で有ってけな
らぬ、今、まさに、その直を直す人としていたのではな
いか？ 果して現在 SNAC に pola 法を立派になしと
げることが可能か、私は疑い、もしも今合宿において、
態度が成功しても…… //

6. 6. 10. には実際の登山に使うものを、各自が下へ入山
調理道具を準備して、正確に調理する。

気象係

井原 学

経過

気象台発表の長期予報によると、「12月下旬は移動性の高気圧と低気圧とによる変り易い天気、1月に入ると大陸に優勢な高気圧が表われて完全な冬型となり、山岳方面は風雪に用ざされる」とのことでした。事実に経過もその様に述べたようです。

12月26日、華北の高気圧(1050 mb)により、北西の気節風が吹き出し、東シナ海に発生して移動性高気圧によって、天気は回復に向い30日には高気圧が日本を覆ったため、あの様な好天が得られた。年が明けると、バイカル湖附近に1070 mbの高気圧が発達し始めたため、西高東低の完全な冬型となり、山は荒れた。しかし1月3日に華中に1040 mbの高気圧が発生し、徐々に東へ移動し、スグと壞しながら消滅すると、更に、華中に1034 mbの高気圧が発生し、6日に日本に張り出したため、一時的に風雪がやんだ。しかし、その高気圧が蒙古の強い高気圧に吸収されると再び山は荒れた。そして9日、1040 mbの高気圧が華中に現われると、その高気圧の影響により、荒天はや、おさまった。しかし依然として、1070 mbの高気圧がシベリアに停滞し、790 mb前後の低気圧が、北海道沖に、前線を引きずりながら発達している。山はまた荒れる。

感想

1月6日、重く連続的に層積雲を見て、北總より引き返した。あの親望

この冬は想像的な荒れ方をうけたが、そういう場合、3000mの山においては、天気の長期予報を基にした計画と的確な判断による行動が必要である、ということには、言を待たないことがもしれない。登山観にもよるが、時間がかかって凍傷になる。細肥の所有者たちにとっては、たゞし句論を氷を克服する方法は他にみあると考えるか。

涉外係反省

駒井浩

涉外係としての仕事は、入山のトラックチャーターだけに終一、当日朝、愧を冠せてくれる様に頼んだ為、トラックが駄に来たのは予定より一時間遅れしてしまった。結果的には却って良かったようなのだが、やはり前々から頼んでおくべきだった。

積雪期に上高地線に行く唯一の元上高地陸送が会社名をアルプス運輸建設と改め、営業所も島々から松本市鎌田に移転している。今後利用する場合の為に電話番号を書いておく 松本(3)局 4749。尚6ト車以下の小型は無いそうである。

約速通り中の湯まで運賃9000円で他に運転手にお礼としてウスキー一本を差し上げた。

医療係

秋元一浩

今回の様に体の不調の者が多かった合宿は初めてだ。これは当然、合宿のあり方の問題になる訳だが、医療係としては、計画書にのせて注文と一体何人の人が読んで実践してくれただけ、と言いたい。大体、病気を持て山へ入り、他の member に伝染させるのみでなく、当人自身 party に迷惑をかけるなど member ship の欠如以外の何ものでもない。member ship とは何か、もう一度よく考えてみて欲しい。

持っていた医療品について気付いた点を三あげてみたい。別表と参照して貰えば分かる様に、風邪薬の使用が激しく、今回は足りない位だった。しかしこれは、これ以上持って行っても無駄だと思われ、それよりも医療の係としては、入山前の member の健康管理に留意して方がよい。体の調子の悪い者には入山を遠慮してもらい、持病薬は必ず持って行ってもらう。これを十分だと思われ、山の中に病原菌はないのだから。ビタミン剤の使用に関して一言付けたい。今回ビタミン剤は医療品として持っていたという事である。合宿前にはいつも食糧費をいくらにするか、でもめるか、食糧係は医療品としてビタミン剤を持って行くことを期待しているのだ。ビタミン剤は安くならないが、食糧費は実質的に値上りしている訳なのだ。その辺り、ご一考願いたい。

リストに上っていない薬品で必要を感じたものは オロナイン軟膏 と ゼリー だった。冬山では寒外痔を悪くする人が多いため、その為には軟膏類を使うことが多いと思われることと、滑落などにより打撲を受けられた場合、他に代用できる薬がないという点で今後冬山

てし標時、たうかよいと思ひ。そのには又、併せて、その内
合一と幸へて又ひ。抗生物質の様な高価な薬品、注射器、針などで變
して置くといひく思ひ。実際に使用した場合には、何れも分けて置くべし
いの代し、汚損さえしなければ、投料など取らなかりを引取って、此の
薬品、器具の保管についてだが、合宿の毎に医療係は、又の合宿にも
使用に耐えるものをリストにして、部に保管し、薬などは粉まじり汚
したりしないように責任を持って管理した方がよい。次の医療係の不要
な労力を省き、余った薬を無駄なく復えると思ひ。

次に健康診断について。入山前、日赤の佐藤先生にお願いして全員
を診断して、「どうしたのか」打診、聴診位では責任ある診断
は出来ない。そのことだつた。人間ドックへ入らなれども、2日位か
けて臓器の検査をしなければならぬ。2年生以上になれば
ほとんど内臓の疾患はないと思つては、向違ひないと思ひが、最近
夏山がそれ以前に心臓とか肝臓の悪いのが、現われて来るというケー
スが数件あつた。そこで提案だが、来年度の新人から入部届と一諸に
健康診断書も一緒に出させるようにしたらどうだろうか。大学で
行く健康診断の他に心電図をとること、肝臓の検査位までやって
もらつた方がよいのではないか。

最後に竹ごうりのこと。今まで薬品、器具は薬の空かんなどに入れて
携帯してつたようだが、かんがつぶれ易いこと、中味が少くなるとどうし
ても中がカタカタしてピンをゆつたりして、とかく内容物をこぼし易い。
それから、テントの中の様に湿度の高いところでは内部に露をつくりや
すくない。こういう点を考えると竹ごうりは、実は快適である。若しこ
登同いたれば、使用したごうり2つの代金を部費でまかなつてい

品名	数量				単位	備考
	1	2	3	4		
マスク						
ネオバン						
ワビオ						
体温計	1	1	1	3		
ハサミ	1	1	1	3		
ピンセット	1	1	1	3		
氷のり(ビニール)	1	1	1	3		
ぼんそうこ	1	1	1	3	0	
竹ごつり	1	1	1	3		
ビニール袋	4	1	1	3		薬箱に入る
バンビタン	50	10	60	120		行動目的 中後手。 I.D.C. 1216 1Tab 4カ 122Tab あり
ビオタミン		36				
I.O.C	9	12	9	30		
アスバラ	10	40				

⑨

計画の変更により各テナントのメニューは常に一緒ではなくなり各テナント宛に分けてあった医薬品は一緒にして使われる場合が多かった。

装備係

金子 鉄男

反省： 自主性が無かった事を素直に反省すると共に入山前の装備の点検が2日程遅く入山前日におわたり、入山後、不満が噴出した為メンバーに多大の迷惑をかけた事を、おわびします。

以下 気のついた点。

- ・ガソリン 1日 1人 2500ccという事を理論的に裏付けておまわった。(小屋内の温度が高かったにもかかわらず消費がけしめられた為。)
- ・暮営生活を豊かにする為。
 - ・40cm四方の金属ホンを今後の小作にとり入れるとの忠告あり。
 - ・テント内の清ソウはタワシではなく小さいホウキを持っていったらいいと思う。
 - ・ホエーバズのカンをゴミ箱にする事はホエーバズの精度を保つ意味から絶対ダメ → 半十カンの利用。
 - ・今回はコッパルの損失から半十カンを利用したわけだがこれは重量からいって捨てるおかしな事からいって今後とり入れるヨクあり。但し、パッキング、清潔さ、使用しやすさに向題あり。
 - ・スポンジは有効だった様思う。
 - ・その他色々矢付から考えた事を どんどんお話し下さい。
- ・ハークン使用数 9枚 (立3 横5 兼用1)
- ・カラビナ 4枚増。 ・ステナワ (厚11mm) 全部あてる。その分をクレマワ 5mm と 9mm で補う。
- ・ロープは小屋がけの時はもっとも少なく事。でも1本 3日は持つべきだ。 ・メタ 60个は多すぎた。
- ・岩手大柄 ストック 9本 寄附される。

冬山合宿会計報告

望月映洲

請求予算	実費	残
<ul style="list-style-type: none"> 食糧係 39,600 	<ul style="list-style-type: none"> 魚カ 17,154 中島 7,500 米 3,299 その他 <u>8,642</u> 36,595 	<ul style="list-style-type: none"> 3,005
<ul style="list-style-type: none"> 装備係 10,000 	<ul style="list-style-type: none"> ツリンその他 3,450 ハナシ 2,800 クレマ 2,000 その他 <u>3,813</u> 12,063 	<ul style="list-style-type: none"> マイナズ 2,063
<ul style="list-style-type: none"> 医療係 1,300 	<ul style="list-style-type: none"> アトシ 800 新ベンザ 400 アアシド 270 その他 <u>30</u> 1,500 	<ul style="list-style-type: none"> マイナズ 200
<ul style="list-style-type: none"> 気象係 250 	<ul style="list-style-type: none"> 干気用紙 245 250 	<ul style="list-style-type: none"> 5
<ul style="list-style-type: none"> 渉外係 5,000 遭対基金 1,000 	<ul style="list-style-type: none"> トラップ・マイクロ 1,000 10人分 	<ul style="list-style-type: none"> 0 0
<ul style="list-style-type: none"> 合計 57,150 	<ul style="list-style-type: none"> 56,403 	<ul style="list-style-type: none"> 747

1月26日の反省会より。

I. 準備段階

- ・準備段階で全員のサポートが行われた。
- ・全員で話し合う機会が少なく色々な問題が生じた。
 - ・Membershipの欠如。
 - ・合宿意欲の欠如。
- ・体調の整えが行われた。

II. 入山中

- ・体調の悪い者が多すぎた。
- ・実際の行動面には意欲が尽きいられた。
- ・入山で又遅れた。
- ・下山の時 最低燃料、Essen一日分を持っていくべきだった。

III. 前穂 Attack

- ・天候が悪くて仕方がない面もあったが、それまで為すべき事をやていに行かたんじゃないか？
- ・全員が前穂にAttack隊を出して合宿の目的を果すという意欲がなかった。
- ・もと長期予報を信じて計画段階にも考慮したらどうか。

IV 総括

- ・現在の部にもいえる事だが、意欲が全体に乏しく、それが故にサポートが無く現状でアップアップして部を維持していくのが勢一杯である。ここでもう一度考える必要があるのではな
- いか？

V. 各係の反省

・食糧係

- ・とん作 Essen でも計画通りやて、捨った Essen 作らば使い方がいんじなにか。
- ・下界で下調べがなかつた。
- ・氷渡日のマ倉性についての向題。
- ・そばまきはまかつた。他の面での工夫は良かった。

・装備係

- ・トランシーバー・テント etc. 研究不足でこれから我々の部にあつたものにしていく必要がある。
- ・積雪期の山では特にテント・火器には注意を払う必要がある。
- ・個人装備はもと自分にあつた様工夫をせよ。

・気象係

- ・意欲的に行うことはした。
- ・地型性の気象を研究すると良い。
- ・冬山の気象についての記録の累積は大事なプラスとする。

・医療係

- ・体の調子の悪い者は合宿を考慮する。
- ・X山前の健康管理。
- ・ビタミン剤は Essen 費に入れろべきだ。
- ・各自の持病薬は各自で携帯。
- ・抗生物質は借用にする形にするを好む。

感想・反省

I.

秋元一浩

ちょうど一年振りの合宿だった。久しく忘れていた仲間と共に登るこの楽しさを味わうことができた。今度の合宿でも山から学んだことはいつもの様にいくつもあった。しかし、ただ、それが合宿でなくとも得られたであろう性質のものであることを思い返すと残念で仕方がない。常々の合宿とは各人求めるもって参加し、山という場においてお互同志ぶっかり合い、みがき合って、一人で行くより、いや、プライベートなパーティーでいくより更に豊かな実りをもたらしてくれるべきものだと思っている故に残念なのである。

今合宿の反省ということになれば恐らくこの廻りに一番問題があると思う。

計画通り前穂まで行かれなかったことについては、今シーズンの気象条件を考へてみれば止むを得ないことは承知しているつもりだが、果たしてパーティーとしてやることを充分為したかというところに問題があると思う。北穂の頂上までテントを上げ、そこで生活し、更に前穂の頂上を往復あるということは、いかにホスピタブルなルートであるからといって、決して容易なことではないのだ。

今日はこれから反省会があるという。そしてその席の内容を合宿の記録にのせるというのを細か点についてはその時、胸藏なぞしるべろうと思う。

ここでは話し合いの中心となるべき点のみをあげることに止めようと思う。

第一に各人、合宿に対する姿勢、メンバーシップの問題。次に合宿の團長にあたるリーダーシップに関する問題。第三に、当然前の二つに實際関係することだが、入山前の準備段階における問題。

食料と装備についても充分反省して今後にかかして行かなければいけないと思う。

II. 冬山のケンジ

宇都宮・昭義

冬山、積雪期の山の中で毎日同じ顔でカリで行動し、生活するには、我々はあまりにも自己中心主義的考へ方に固まりすぎているのではないか。そして厳冬期の穂高は、その厳しさにより我々の思い上がりを正しくしたのでは.....

その気がして凍傷の鼻の頭の皮をむきました。

III.

望月映洲

1. 継続的なたれこみをして、身体をきたえなくちゃいけません。
2. 規則正しい生活をしなくちゃいけません。
3. 節制し、健康節理に努力しなくちゃいけません。
4. 若いものが欠食している様じやいけません。
5. タバコや酒はかりくらってちゃいけません。
6. 勉強しなくちゃいけません。
7. 多方面にわたる知識を豊富に持たなくちゃいけません。
8. 散養を身につけなくちゃいけません。
9. 精神力を養わなくちゃいけません。
10. 繊細な神経を養わなくちゃいけません。
11. ぶつを出さなくちゃいけません。
12. 知識と経験を常に生かさなくちゃいけません。
13. 気のゆるみを自分の動作に表わしなくちゃいけません。
14. 山に入る回数も多くしなくちゃいけません。
15. 経路を確実につかなくちゃいけません。
16. 自分の行動の因習がからずいけません。

17. 部への責任を押し、部の正しい飛躍に寄与しようとしなくちのうけません。

以上、ゆかりがきいていることを、くどく、おおざっぱに書きました。
私に対する私からの冬山反省です。

スリッパ事故については一言もおけません。深く反省しております。
長い間、山が恐かったけど、最近その恐さが少しと山へ行でした。今回の事故で、又山が恐く感じるんじゃないかと、その真を心配しています。その心配をなくす為にも、私は今まで以上に、山に入りたいと願っています。

新しい年を迎えました。早く皆さんの顔がそろって、新しい歩みをしてい
ものです。

1月中旬、下宿のコタツにて

Ⅳ.

向後利彦

登山をすることによって物を生産することは正しくない。そして、一つの山行を為すにはどれくらいエネルギーを要する。そのエネルギーが決まって無駄なく、自分に返ってくる登山登りをしている。

Ⅴ.

井原学

人に個性がある様に、心つひとつのおつひとつひとつの色を持っていました。黒々とした岩はだにへばりついた氷がキラキラと光っていました。山から降りたら心が貧しくなった、といわれました。そうじゃない、そうじゃない、そんな人じゃないと口を開けても、もうかえらないうの冬の日。お女様と盗賊にちに祝福を!

Ⅵ

金子鉄男

今回の合宿の反省として、全員としては過言かもしれませんが「無気力」の一語に尽きる様です。全体の無気力、個人の無気力が、登行意欲の減退につながり、副合だけの山行になりがちだったという事である。もっとも今回は、荒れるが相場の冬山でも異例といわれた天候故、若干の計画変更は必然のものであったかもしれませんが、これも信頼のおける装備、ならびに僕達には少々の逆境を乗り越える実力が備わっていれば解決出来得た問題だと考えています。

そして、自分を顧みるに、全くいままでと行程繰返したかもしませんが、トレーニング系自ら痛感したその欠如、入山前の健康管理の不備ならびに無気力とお得意の馬川合の下に山に入って山をいじたのです。

疲訳口調に行りますが、これは山に対する、部に対する、そして、自己に対する冒瀆であり情けなく思っております。でも情けなくは思いますが、決して反省している訳ではありません。反省とは、既に終えた山行のよくなるかた点をとりえて、明日の山行では、再び繰返すまいという意志があってこそ反省に値すると思っております。反省とは建設的なものだから。

ところがどうも持病の虚無的、マランコリーな精神状態が続き、これでは明日はおろか今日が心配である。最多に居直る様になってしまいたが、これで反省文に行りませうかどうか？